



ロータリー：
変化をもたらす

国際ロータリー2590地区

KAWASAKI ASAO ROTARY CLUB

川崎麻生ロータリークラブ

会長 森 茂則

幹事 森 啓伊



大矢 紀

第 1236 回 例会記録 平成 30 年 6 月 1 日(金) S. A. A 委員長 蓬田 忠

【点 鐘】

森 茂則 会長

【例会場】

ホテルモリノ

【S. A. A.】

青戸 慶太 委員

【ソング】 国歌『君が代』 ロータリーソング『奉仕の理想』

【ゲスト・ビジター紹介】

森 茂則 会長

◆岡本徳彌 様

(パストガバナー・
川崎北 RC)

◆米山奨学生

モハマド・ミカル君



【今月の誕生日・結婚記念日】

黒木啓太郎 親睦委員

【会員誕生日】・蓬田忠会員 (6/2)

・大野勉会員 (6/19)

【夫人誕生日】

・黒木真紀様 (黒木啓太郎夫人)

・青戸聖美様 (青戸慶太夫人)

【結婚記念日】・川崎航会員 (6/8)

・木村良三会員 (6/30)



【代表で蓬田忠会員コメント】6月2日が誕生日ですので例会
当日賞は1日外れました。74歳です。ゲストの岡本様とは長い
付き合いです。お酒を飲みすぎないように気を付けます」

【第12回理事・役員会報告】

森 茂則 会長

1. 通帳名義変更の件 【承認】
2. 次年度予算案の件 【承認】
3. 会長幹事ご苦労様会収支報告 【承認】
4. PCモニター取替えの件 【承認】



今月が記念日の会員：木村会員・蓬田会員・大野会員・黒木会員・川崎会員

【会長報告】

森 茂則 会長

1. 今月のRレート 1ドル=110円
2. R米山記念奨学会より 奨学生宛の「ロータリーの友発送
の件」で再度訂正変更のお知らせ

【幹事報告】

森 啓伊 幹事

◆例会変更

●川崎中央 RC

○6/3(日)～6/4(月) 一泊移動例会
老神温泉「吟松亭あわしま」

●川崎大師 RC

○6/13(水)～6/14(木) 一泊移動例会
木更津「ホテル三日月 富士見亭」

○6/20(水) 例会場所変更 川崎大師平間寺 信徒会館2階

●川崎高津RC

○6/21(木) 休会

○6/28(木) 最終例会 ホテルKSP 点鐘 18:00

◆「2017-18 年度インターアクトクラブ海外研修報告書」が届い
ています。



第 1 2 3 7 回例会 6 月 8 日 (金) クラブフォーラム

ホテルモリノ

第 1 2 3 8 回例会 6 月 1 5 日 (金) 各委員年度報告

百合ヶ丘カントリー倶楽部

第 1 2 3 9 回例会 6 月 2 2 日 (金)

百合ヶ丘カントリー倶楽部

【例会日】 第 1・2 金曜日 12:30～13:30 【例会場】 ホテルモリノ 新百合丘 7F TEL: 044-951-1322

【例会日】 第 3・4 金曜日 12:30～13:30 【例会場】 百合ヶ丘カントリー倶楽部 2F TEL: 044-951-1322

【例会日】 第 5・ 金曜日 12:30～13:30 【例会場】 百合ヶ丘カントリー倶楽部 2F TEL: 044-951-1322 OR 移動例会

例会数	会員	出席	欠席	修正	出席率
1234 回	32	19	13	6	78.1%
1235 回	32	22	10	9	96.9%
1236 回	32	26	6		81.3%

	第 1236 回(件数)	合 計
ニコニコ	26 件	¥28,000

	第 1203 回(件数)	合 計
R . 財 団	7 件	¥43,000

	1203 回 (件数)	合計
米山記念奨学	7 件	¥48,000



実はロータリークラブに入って一番嫌な奉仕活動がゴミ拾いでした。何故ならプロゴルファー『森茂則』が邪魔をされていて最

初の数年間は参加していませんでした。しかし、3年前の桜山公園のゴミ拾いの時に、いつも遊びに来ている保育園児と保育士さんから「お掃除有難う！」と言われて、クラブに入っていて良かったと思えるようになりました。ある意味の自分の居場所を見つけることができ、こんな汗なら何度でもかきたいとも思える瞬間でした。

世間では、ロータリークラブって金集めでしょうと思われがちですが、ゴミ拾いなどのボランティア活動にも即対応できる、そんなクラブでもあるのです。私のボランティア活動の考えは、それが会報作りであれ、サンタクロースなどの仮装であれ、自分

の得意分野を生かしたものであれば良いのではと思っています。それこそボランティアだと思います。

パスト会長諸先輩、この一年間のご指導ご鞭撻有難うございました。残すところあとひと月、この場をお借りしてお礼と一年を振り返ってのご挨拶とさせていただきます。有難うございました。

【四つのテスト】

鈴木 昭弘 会員

【点 鐘】

森 茂則 会長

【会報委員会】

文責：中山 隆弘 委員

【HIKARU Report】5 月 月例報告

ドイツ派遣学生 竹尾 光

Guten Tag ドイツ派遣の竹尾光です。

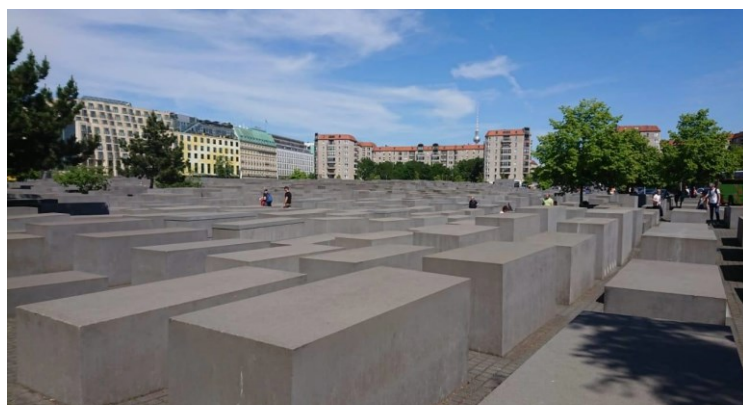
ドイツは既に 30 度を超える暑さになっています。日本も暑いと聞きますが、皆さんはいかがお過ごしでしょうか？ドイツでは、ヒーターのような冬に部屋を温めるものは完備されていますが、日本のエアコンのように夏に使用するものは、家庭的なものではありません。もちろんスーパーなどのお店や、車にはついていますが、家にはついていないことが多く、部屋の窓を開けて、暑さを凌ぐしかありません。しかし今の時期は花粉も蔓延しているため、暑さを凌ぐために窓を開けると花粉が部屋に舞い、かといって窓を閉めれば暑さでやられてしまいます。ドイツのこの時期は花粉症の人にはとても辛いものとなっています。

さて、本題に入らせていただきます。今月は Thuringen 地方とベルリンを1週間、地区の派遣生と共に回りました。Thuringen ではバッハハウスやマルティン・ルターが訪れ、今は世界遺産ともなっている、ヴァルドブルク城など様々な世界遺産や歴史的な建築物を見ることが出来ました。クリスマスに最初のホストファミリーと訪れたベルリンは再訪となりましたが、有名なブランデンブルク門やチェックポイントチャーリーなどの観光名所をはじめ、前回とは異なる視点でじっくりと見る事ができました。今回のツアーもたくさん学ぶ事が有りましたが、ここで全てをお話することは出来ないの、特に印象に残った場所をお話していきたいと思います。

まず1つ目は Thuringen で行った、ブーヘンヴァルト強制収容所です。そこは第二次世界大戦時にヒトラー率いるナチスが使用した強制収容所の1つで、作られた当初は土にドイツ人の犯罪者を収容する場所でした。しかし、第二次世界大戦中には捕虜となったソ連兵も収容され、最終的にはこの収容所の囚人の1番多くはソ連兵の抽虜だったそうです。ここを訪れてみた初めの感想はそれほど悲惨な感じではないな、というものでした。しかし、いざ説明を聞いてみると、あまりにも悲惨な出来事の多くがここに刻まれていると感じました。ブーヘンヴァルトは労働収容所と呼ばれ、ここの囚人は強制的に労働をさせられます。私が踏んだ収容所の中の道路や見た建物などは捕えられていた囚人たちによって、とてつもないスピードで作

上げられたものでした。囚人を運ぶための道路や披らを監視するための建物、さらには敵国のための物資を、人開の尊厳も認められないまま作られ続ける人々の肉体、精神両方における辛さ、悲しさ、そして悔しさは私の図り得るものではありませんでした。また中には毒物の実験に参加させられ、実験体として、その命を落とした人もいたそうです。それはとても人間が受けるようなものではなく、文字通り実験マウスのように、多くの人の命が人ではないもののようにここで終わりを告げさせられたのだと感じました。それらの写真をみた派遣生の中には涙を流している人もいました。おそらく、多くの派遣生にとって、これほど悲惨な戦争の歴史を見るということは初めてだったのだと思います。派遣生の多くはアメリカ合衆国やメキシコ、ブラジルなどから来ています。もちろん、その国々にも悲惨な歴史は数多く存在していると思います。しかし、このドイツの強制収容所の歴史はそれをもはるかに超えるものだったのではないかと思います。あまりに悲惨なこの歴史を目にし、私はある場所を思い出しました。それは去年行かせていただいた。広島原爆ドームとその博物館です。このブーヘンヴァルト強制収容所を出る時の私の心境と原爆ドーム博物館を出る時の私の心境は似たようなものがありました。「この歴史を繰り返してはいけない。」ありきたりかもしれませんが、この思いが1番強く心に残りました。

そして、2つ目に心に残ったのはベルリンのホロコースト慰霊碑です。綺麗に並べられた背の違う、長方形の石たちは、第二次世界大戦時に犠牲になった。ダヤ人の鎮魂のために作られたユダヤ人の歴史が数多く展示されていました。その中で



特に印象に残ったのは、犠牲となった人達の名前と生い立ちが1人ずつ読み上げられている部屋です。そこには写真などは一切なく、ただ名前の書かれたスライドが生い立ちを読み上げられる際に流れるだけです。一人約3分程度(体感なので正確なものではありません)の簡単な生い立ち程度の説明ですが、もしそれを全て聞こうとするのであれば約6年半もの歳月を費やさなければならないという説明を受けました。これで、どれだけ多くの。ダヤ人が犠牲になったのか理解はできると思います。さらにこれはユダヤ人だけの犠牲なのです。第二次世界大戦中のドイツによる迫害はなにもユダヤ人だけではありません。先述した通り、ソ連兵なども強制収容所に送られて、何人もの人が犠牲となっています。もし世界中の戦争犠牲者の名前をこの部屋で流したら、何年の歳月が必要なのか私には想像もつきません。

今回のツアーは、ドイツの歴史的な部分に触れる上で大きな意味のあるツアーでした。ブーヘンヴァルト強制収容所もホロコースト慰霊碑もドイツにとって、最悪の歴史といえるものだと思います。しかし、それをドイツ人は後世に伝えようと努力しています。それは日本の原爆ドーム同様、見たことによって楽しさや嬉しさを得るものではありません。ただ辛いだけ、ドイツ人から見ても外国人から見ても同じことです。しかし私たちはこのことから目を背けては行けないと思います。「この歴史を繰り返してはいけない。」私たちができることは、現実起こったこととして認識し、この辛さをずっと心に刻み続けることなのだと改めて思いました。私以外の派遣生達もそれを感じてか、いつもは騒々しいのですが、このような場所を訪れた時は粛々とそれを眺めていました。

しかしながら、ツアー中はもちろんそのような重い時間だけではありません。ベルリンの綺麗な街並みやバッハハウスなどの



興味深い歴史的な展示物を見ることができました。夜には公園などにも行き、派遣生みんなでいつも通り楽しむことも出来ました。また派遣生同士での最後のツアーとなり、最終日の夜には泣いている人もいました。あと約2ヶ月あるので、もう1度は会えるのですが、多くの思い出を共有した仲間との別れが近いということには、自分も辛いなと思いました。派遣生たちと最初に会ったのは、ドイツに来て1ヶ月たたない頃に参加したランゲージキャンプです。その時にも書きましたが、英語もドイツ語もさっぱりだった私にとって、他の派遣生と過ごす時間は楽しさよりも辛さが勝るものでした。しかし今は、もちろん周りに比べれば英語もドイツ語も堪能とは言い難いかも知れませんが、私なりに上達し、コミュニケーションをとることができるようになったことで、披らと過ごすことを辛いと思うことはなくなり、楽しさで溢れる時間となりました。今回のツアーはヨーロッパツアーに比べ、歴史的なものに多く触れたこともあり、日数は約3分の1だったにも関わらず、精神的には同じくらい疲れしました。

ドイツでの最後のツアーも終え、あと残り6週間余りとなりました。とてもそうは思えず、実感がわかりませんが、これまであまり交流できていなかった、派遣生達ともっと会えるようにするなど、引き続き悔いのない日々を過ごしていきたいと感じています。

